

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°41 ネゴシアン・フレデリック・コサール

生産地方：ローヌ

新着ワイン 1 種類♪

VdF ヴェルシオン・スッド（赤）2018年

フレッドがローヌのテロワールを求め新たに仕込んだのがこのヴェルシオン・スッドだ！ジゴンドスとヴァントゥーの2つのテロワールと100年を超える樹齢のブドウを今回実験的にフレッドのブルゴーニュスタイルで仕込んでいる！ワインの醸造は彼が何度かローヌに足を運び現地の生産者にアドバイスをするかたちで加わり、熟成とアッサンブラージュは彼のドメーヌで行っている。

さすがはフレッドの仕込むワインだけあって、酒質が柔らかく上品で、果実の凝縮味が染み入るように優しい！彼曰く、このワインのポイントははずばりマイナー品種が主体であるということ！ちなみに、ローヌの赤のメジャー品種と言えばグルナッシュとシラー。そのメジャー品種であるグルナッシュがヴェルシオン・スッドには35%しか入っていない。その他の品種は、カリニャン、サンソーを含め全てマイナー品種だ。「例えば、味わいのメインではないが、このワインの重要な背骨のとなっているわびさびの効いた奥ゆかしい酸は、クノワーズ、ウイヤード、アラモンなどの土着品種から来ている。これらは、かつてワインの色出しや収量を上げるためだけに使われ、全く評価されなかったブドウ品種だ。カリニャンやサンソーも同様に、ローヌではマイナー品種として扱われる。これらグルナッシュやシラーよりも低く評価されるブドウが、樹齢100年を超えるヴィエーユ・ヴィーニュともなると、これだけエレガントで深みのあるワインになるということを実証したかった！」と彼はヴェルシオン・スッドのコンセプトを語ってくれた！

ミレジム情報 当主「フレデリック・コサール」のコメント

2018年のジゴンドスとヴァントゥーは収量と品質に恵まれたとても良いミレジムだった！

最初のスタートは暖冬で、冬の終わりから春にかけて雨が多く湿気の高い天候が続いた。気温も暖かくさらに豊富な水の貯えがあるおかげで、萌芽は例年よりも早かった。5月6月は天気にも恵まれたのだが、春に多く降った雨の影響で畑内は常に湿気が高く、ミルデューが猛威を振るい始めた。ローヌ地方は一般的にオイディウムの蔓延はあってもミルデューが猛威を振るうことは極めて珍しく、最初は蔓延するスピードの早さに戸惑ったが、すぐにボルドー液で対処することにより、辛うじて被害を最小限に食い止めた。その後は一転、ミストラルの乾燥した風と太陽に恵まれたこともあり、ミルデューはピタリと収まった。7月の終わりには40度近くまで気温が上がる猛暑に見舞われ、日照りが心配されたが、春に降った雨の貯えが十分にあったおかげでブドウの水不足は免れ、さらに8月中旬に適度な雨が降ったことでブドウの成熟に勢いが増し、最終的に早熟で傷ひとつないきれいなブドウを収穫することができた。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き



今回初リリースとなるヴェルシオン・スッド♪エチケットのデザインは、フレッドのACブルゴーニュ、つまりあのブドー、ピゴットを手掛けたジャン・ジャック＝センペ氏だ。これはセンペが直々に描いてくれた原画の写真。(写真①) この絵は現在フレッドのカーヴに隣接するテイスティングルームに飾られている。ロール曰く、センペ氏は非常に気まぐれなアーティストで、絵を依頼してもいつ仕上がるかという期日が読めない難しさがあるそうだ。今回の絵も依頼してから何度も催促した上かれこれ1年は掛かったそうだ。また、描いてほしいイメージを彼に伝えても言った通りには決して描いてくれない、彼の思いついたままに筆を動かすので、仕上がりがどうなるか分からないというのもアーティストらしい。ちなみに今回の絵も野兎のいる畑の収穫祭の風景というフレッド側の依頼は、彼の頭のフィルターを介すと、収穫者はグラスに注がれた赤ワイン、畑を走る野兎はワインがあまりにおいしくて月に上ってしまったそうだ。我々も初めてこのエチケットのデザインを見た時は、元々ロールから説明されていたデザインとあまりにもかけ離れていたのでは思わずぶっ飛んでしまった！

とは言っても、この絵は正真正銘もうすぐ90歳になるフランスを代表するイラストレーターの巨匠センペがフレッドのために直々にデザインしたモノ！このこと自体、普通ではあり得ないくらい非常に貴重なことなのだ。私自身も、ローヌのワインにこの淡いデザインは…と最初は違和感を覚えていたが、だんだん慣れてくると絵がボトルと馴染み、むしろこの絵でなければしっくりこないまで病みつきになってきた！

(2019.9.20.ドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ